

授 業 科 目 名	生 理 学 実 習	授 業 形 態	演 習
		配 当 学 期	1年（後期）
担 当 教 員 名	山田 真輔、平塚 将嗣、中村 侑造 井東 優貴、前谷 一旗、木村 公亮	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕</p> <p>生理学とは、人間の生命活動を理論的に追及していく学問である。人間は生命を維持するという目的のため、生体内外の刺激に対して、各器官を協調的に働かせ処理していく。本実習においては、生理学で学んだ各器官の働きや反応を、実験を通じて確認していく。同時に時間内に実験を行い、結果をレポートとしてまとめる作業を行う。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>各実験における生理学的反応を理解し説明することができる。 実験で得た知見を、レポートとしてまとめることができるようになる。</p>		
授 業 回 数	授 業 内 容		
第 1 回	各生理学実習内容（血圧・心拍数、心電図）の説明と実習手順について		〔前谷/山田〕
第 2 回	血圧と心拍数（実習）		〔前谷〕
第 3 回	血圧と心拍数（実習）		〔前谷〕
第 4 回	心電図（実習）		〔山田〕
第 5 回	心電図（実習）		〔山田〕
第 6 回	生理学実習内容（皮膚感覚、表面筋電図）の説明と実習手順について		〔平塚/中村侑〕
第 7 回	皮膚感覚（触覚と2点識別覚）（実習）		〔平塚〕
第 8 回	皮膚感覚（触覚と2点識別覚）（実習）		〔平塚〕
第 9 回	表面筋電図（実習）		〔中村侑〕
第 10 回	表面筋電図（実習）		〔中村侑〕
第 11 回	生理学実習内容（神経伝導速度、最大酸素摂取量）の説明と実習手順について		〔井東/木村〕
第 12 回	神経伝導速度（実習）		〔井東〕
第 13 回	神経伝導速度（実習）		〔井東〕
第 14 回	最大酸素摂取量（実習）		〔木村〕
第 15 回	最大酸素摂取量（実習）		〔木村〕
評 価 方 法	<p>各々の実習後にレポートを提出し、以下の基準で採点した平均点で評価する。</p> <p>①期限内に提出できている：10点 ②実習の目的が的確に述べられている：10点 ③実習の方法（機材も含む）や手順が述べられている：20点 ④結果が分かりやすく表記されている：20点 ⑤結果について論理的妥当性のある解釈が述べられている：40点</p>		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「生理学」第4版 医学書院		
履 修 上 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画をたて、効率よく実習すること。 ・報告書は、目的、方法、結果、考察にわけ、簡潔にまとめるように努めること。 ・実習に使用する機器等には、危険物などが含まれる。そのため、取り扱いには充分注意を払うこと。共同で使用する資源であるため、整理整頓に気を配ること。 		
メ ッ セ ー ジ	職場では、職員同士のコミュニケーションが非常に重要になります。実習でも、グループで行いますので、お互いしっかりコミュニケーションをとりながら実習を進めてください。		